

校長室だより

共学共高

第
76
号

令和7年3月1日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

第59回弥生祭～3年生を送る会

令和7年2月28日、本校の伝統行事とも言える弥生祭が開催された。実行委員会の生徒及び有志が企画・運営をし、各部活動や生徒会が参加して、3年生を送別したのである。全校生徒で行う弥生祭は、コロナ禍後2回目である。

朝、実行委員長のKさんがわざわざ校長室まで迎えに来てくれた。「準備は大変でしたか？」と尋ねると、「なかなか大変でした」と応じてくれた。大きな全校行事を1・2年生の実行委員や有志だけで創り上げていくのは、並々ならぬ苦労があったことだろう。開会式での委員長挨拶からも、「3年生に感謝の気持ちを伝え、楽しんでもらいたい」との思いが伝わってくる。

開会式後は、吹奏楽部の演奏である。今年度も都高等学校吹奏楽コンクールなどで金賞を受賞している部である。今回は、「宇宙戦艦ヤマト」と「銀河鉄道999」の2曲を力強く演奏してくれた。その後、3月下旬に開催される定期演奏会で披露する昭和歌謡ショーの一部を演奏してくれたが、ネタバレしないように曲名は伏せさせていただく。生徒たちからは「可愛いー」との声が上がっていた。

書道部は、近年、部員数が増加し、そのパフォーマンスも進化し続けている。メッセージ性のある3つの作品をその場で披露してくれた。「挑夢」（自分の夢に挑むこと）、「青春」といったキーワードが大きく書かれていた。



合唱部は、少人数ながら、透き通るような歌声で「花は咲く」と「WAになっておどろう」

を披露してくれた。来年度も新入部員が継続して入ることを期待したい。合唱部は今年度、市内の高齢者施設を表敬訪問して、合唱を披露する活動も行っている。その際、アンコールが続き、最後は校歌を斉唱したと聞いている。



ダンス部も踊りに合わせて衣装を用意して、華やかな踊りを見せてくれた。どの部にも生徒たちからの声かけられるのだが、ダンス部の時にはひととき大きな声援が送られる。華やかなパフォーマンスである。



演劇部も元気だ。将来看護師を目指す高校生に対して、その夢を引き裂こうとする「ドリームキラー」が登場して、ネガティブな事ばかりを言う。それに対して、二人の「魔法戦士」が対抗してやりとりをする展開だ。なかなか面白い。個人的には、ドリームキラーのキャラクターに笑わされた。



箏曲部は、「ひまわりの約束」と「渡月橋〜君想ふ」を演奏してくれた。比較的なじみやすい曲を取り入れて演奏してくれるので、生徒たちの受けもよいようだ。礼儀正しく、真摯

に取り組む様子が伺えて好感が持てる。



午前の部の最後は、バトン部のパフォーマンスである。こちらも大きな声援が飛ぶ。心肺機能はかなりきつくなっているはずだが、いつも笑顔でいてくれるのが素敵だ。空中に投げたバトンを全員が見事にキャッチすると、一層大きな歓声が上がる。



部活動の出し物の合間には、実行委員会による企画がいくつか行われる。先生クイズ、シルエット・クイズ、イントロ・ドンなど、楽しめる企画がいくつもある。いいチームワークで演出してくれた。特にイントロ・ドンでは1秒くらいで曲名を当てる生徒たちがいて、驚かされた。



午後の部のトップは、軽音楽部の演奏である。こちらも生徒たちから人気で、声援や手拍子が送られる。複数のバンドが登場したが、交代もスムーズで迫力のあるボーカルや演奏が見られた。部員数も多いので、部内で代表バンドとして選抜されるも大変な難関であろう。



生徒会旗の引継ぎが壇上で行われた。全生徒会長の B さんから、現生徒会長の S さんへ手渡され、それぞれメッセージを伝えてくれた。華やかで賑やかな場面が多い弥生祭の中で、厳かな雰囲気で行われた。きっと良き伝統はこれからも継承されていくであろう。



「思い出のスライドショー」は3学年の教員による企画の第1弾である。入学式から3年間の生徒たちの様子が次々とスクリーンに映し出される。そのたびに、3年生から大きな歓声上がる。こうして振り返ると、感極まるものがある。本当にあっという間の3年間だ。

続いて、3学年の教員による企画の第2弾、「お楽しみ企画」である。若手のG先生、H先生、S先生、N先生がカラオケに行った設定で、次々と驚きの展開が繰り広げられる。詳細は書けないが、生徒たちの大歓声が響き渡る。私も大爆笑、そして涙である。3年間、保護者の皆様から大切なお嬢様をお預かりして、様々なことで寄り添い、向き合ってきた担任・副担任の先生たち。特に、担任の先生たちの心情を察すると、簡単な言葉では言い表せないものがある。お疲れ様でした。



生徒たちから3学年の先生たちへのプレゼントが手渡され、その中身と生徒たちからのメッセージが紹介される。生徒たちは、先生たちをよく見ているなど感心させられる。また、女子校ならではの一体感が得られた弥生祭であった。2年生、1年生も1年後、2年後の自らの姿に思いを馳せたであろうか。まだあどけなさの残る中学生から3年間で大人へと大きく成長していくのである。私たち教職員にとっても、生徒たちと共に歩み続けたかけがえない3年間であった。

さて、3年生の高校生活も残すところはあとわずかだ。卒業式当日、壇上で一人一人の顔を見ることが楽しみである。また、謝恩会でも3年生の最後の思いが込められたパフォーマンスを楽しみにしている。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)